

ひやっ
百 騎 沼
ぎ ぬま

鷺林うさばやしの村北六〇メートル余りのところに、百騎沼ひやつぎぬまという名の沼がありました。大正の頃まで、畳二十丈位の広さの沼が残っております。

また、本田の村北に、菅原神社すがわらがまつられておりますが、この辺りに、一盃館（いっばいたて）という館（やかた）がありました。

むかし、石川郡にねじろをもつ石川氏の一族の軍が来て、一盃館いっばいたてをねじろにして、戦いをしておりました。

ちようどこのとき、葦名直盛あしななおもりと新宮明継しんのみやあきつぐが、新宮しんのみやの村の小松原こまつばらで合戦をしていましたので、この戦いを、小松合戦こまつがっせんと呼んでおります。

石川氏の軍は、夜中に、この一盃館いっばいたてから、百騎ひやつぎ余りの騎馬隊きばたいを、出陣させました。

この辺の農家は、ソバを多く栽培しておりました。時節は夏でしたので、一面、ソバの